

(北名古屋市)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 10 校、中学校 6 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員		1 人
		地域学校協働活動推進員		23 人
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	統括コーディネーター		0 人
		地域コーディネーター		0 人
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	CS を導入している学校数	小 10 校	中 6 校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 10 校	中 6 校	



(活動の実際・天神中学校)

【普段の活動 図書ボランティア・環境ボランティア】

(目的)

環境整備等にもとまう教員の業務負担の軽減

(活動内容)

- ・ 図書室内の環境整備 (本棚や本等の修繕、おすすめ紹介作成等の読書推進活動)、
- ・ 学校内外の環境整備 (除草活動、樹木の剪定、植栽サポート)

【いろいろな視点から見る避難所～視点 その人の気持ちになって～】

(目的)

みんなにとって過ごしやすい避難所にするために「気づき」を大切に、「私たちにできること」を考える。

(活動内容)

地域学校協働活動推進員が中心となり、防災士・看護師、市社会福祉協議会、市内の福祉団体、地域包括支援センター、児童館、市防災所管部署の協力を得て避難所体験を実施した。活動をする中で高齢者や妊婦など配慮が必要な方も過ごしやすいようにするために対応や改善策を考える。

(◎成果と●課題)

- ◎ 防災授業をとおして中学校の設備について理解が深く、発災時にボランティアの主力となることが期待される中学生に対し、避難所運営において必要なことについて学ぶ機会を作り、工夫次第で困難を乗り越える経験を提供することができた。
- ◎ カリキュラム上必修である防災に関する授業を地域の関係者を巻き込んで実施し、教員の業務負担を減らしつつ、より効果のある内容を実施できた。
- ◎ 生徒主体で行うことにより、新たな気づきや発想を地域の方に認めてもらうことにより、自己肯定感や自己有用感向上の一助になった。
- 授業の単元として行うことにより、時間の制限があるため、深い学びにするための工夫が必要。
- 生徒主体の気づきを促したいが、協力者の方の思いが強すぎると、一方的な知識の植え付けになるため、事前の説明とコントロールが必要。

(関係者の声)

- ・ 避難所体験の授業を通して、配慮が必要な人がどのように困っているか分かったので、もしもの時は率先して手を差し伸べていきたい。(生徒)
- ・ 地域の方の力をお借りして、充実した教育活動を行えることに大変意義を感じている。(学校)